

青森市スポーツ推進計画 フォローアップへの意見について

1 施策名

基本方向1	スポーツ・レクリエーション活動の推進
【主な取組1】	スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供
【主な取組2】	総合型地域スポーツクラブ等の情報提供
【主な取組3】	子どものスポーツ・レクリエーション活動の促進
【主な取組4】	高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進
【主な取組5】	障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進
【主な取組6】	指導者の確保・活用
【主な取組7】	地域スポーツの促進
【主な取組8】	既存スポーツ施設の利便性の向上
【主な取組9】	ハイレベルな競技の観戦機会の提供

2 現状と課題（計画の抜粋）

・市民ニーズを反映した各種教室やイベントの開催や各種団体が実施するスポーツ大会やイベントなどの開催促進、誰でも気軽に取り組める運動の普及啓発やハイキングなどの野外活動の普及奨励に取り組んでいく必要があります。
 ・総合型地域スポーツクラブをはじめ様々な活動機会を提供するスポーツ・レクリエーション団体に参加しやすい環境づくりを進めていく必要があります。
 ・子どもや高齢者、障害者がスポーツ・レクリエーション活動へ参加できる機会を拡充するとともに地域の方々为主体的にスポーツに参画する環境づくりに取り組む必要があります。
 ・指導者の確保、資質向上及びスポーツ推進委員の認知度の向上を図る必要があります。
 ・スポーツ施設の適正な保守管理と施設の空き状況やイベント情報など一層の情報提供に取り組む必要があります。
 ・高い競技水準の大会開催誘致に取り組み、観戦できる機会の充実を図ります。

3 施策の概要（計画の抜粋）

ライフステージに応じて市民の皆さん誰もがスポーツ・レクリエーション活動に取り組める環境づくりを多角的に進めるとともに、地域の身近な学校体育施設や市民センターの体育館等を含めたスポーツ・レクリエーション活動が可能な施設全般に関する積極的な情報提供により、スポーツ・レクリエーション活動に取り組める場の利便性の向上に努めます。

4 基本施策の目標とする指標と取組状況

指標名	基準値 (H23)	目標値 (H27)	実績値				現時点での達成率
			H24	H25	H26	H27	
①成人の週1回以上のスポーツ実施率	32.4 %	35.5 %	35.9 %	34.8 %	37.6 %	*** %	105.9 %
【指標の説明】 週1回以上運動・スポーツを行っている市民（成人）の割合（市民意識調査）							
②スポーツ・レクリエーションに対する満足度	17.8 %	26.9 %	15.3 %	14.8 %	15.5 %	*** %	57.6 %
【指標の説明】 スポーツ・レクリエーションを楽しむための機会や施設の充実に関する満足度（市民意識調査）							
③スポーツ施設利用者数	876,957 人	1,044,623 人	1,077,242 人	910,620 人	860,993 人	*** 人	82.4 %
【指標の説明】 本市所有のスポーツ施設の年間利用者数							
④障害者のスポーツ施設利用者数	5,808 人	6,888 人	6,316 人	7,724 人	6,293 人	*** 人	91.4 %
【指標の説明】 文化スポーツ振興課所管施設及びモヤヒルズにおける1年間の障害者利用者数							
⑤スポーツ推進委員の一人当たり年間平均活動回数	61.0 回	66.0 回	59.7 回	62.1 回	55.7 回	*** 回	84.4 %
【指標の説明】 スポーツ推進委員の一人当たり年間平均活動回数							

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供	スポーツ施設の指定管理者による、よりニーズを反映したスポーツに関する各種教室・イベント等の開催や、スポーツ活動に取り組む団体が実施する各種教室やイベント等の開催促進、ウォーキングやニュースポーツなど日常生活の中で気軽に楽しめる運動、更にはハイキングやサイクリングなどの野外活動の普及啓発など、スポーツ施設の指定管理者をはじめとした関係団体と連携を図りながら、市民の皆さんのスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供に取り組めます。	<p>【生涯スポーツ・レクリエーション支援事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AOMOR I マラソン開催支援業務 AOMOR I マラソンの開催を支援しました。 ■参加者数 H25：2,986人 H26：2,607人 <p>【青森市文化スポーツ振興公社助成事業（補助金）（スポーツ事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動指導者派遣サービス 地域や企業、学校等に指導員を派遣し、健康や各種スポーツに関する専門的な指導、情報提供を行いました。 ■派遣回数 H25：6件 H26：7件 ・ニュースポーツ普及促進事業 スポーツ・レクリエーションに広く親しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を図るため、子供から高齢者まで簡単に楽しめるニュースポーツの用具を市民に貸し出しました。 ■用具貸出件数 H25：0件（H25に用具購入・周知） H26：29件 ・合浦海水浴場運営管理事業 夏季間のスポーツ・レクリエーション活動推進のため、小中学校の夏休み期間中に海水浴場を開設しました。 ■利用者数 H25：10,377人 H26：6,789人 	AOMOR I マラソンに参加者数が減少傾向にあります。	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【子どものスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【地域スポーツの促進】	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【地域スポーツの促進】
		なし		<p>【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【子どものスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【地域スポーツの促進】</p> <p>競技水準の高いものを含む各種教室、イベント等を開催し、スポーツ・レクリエーション活動への参加機会を提供しました。小学生の技術向上を図る教室を開催したほか、子供から高齢者までの参加できるイベント等の開催により、地域におけるスポーツを通じた世代間交流や健康増進に貢献しました。</p> <p>その結果、成人の週1回以上のスポーツ実施率については、変動はあるものの基準値を超えて推移しており、目標の達成は可能な見込みです。</p> <p>障害者のスポーツ施設利用者数は、平成25年度は目標値を上回るなど、変動はあるものの基準値を上回る値で推移しています。</p>	<p>【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】</p> <p>スポーツ・レクリエーションに対する満足度は、基準値を下回る値で推移し、目標達成は困難な見込みとなっております。また、スポーツ施設利用者数についても、平成24年度は目標値を上回ったものの、その後は基準値程度に減少し、目標達成が困難な見込みです。</p> <p>ウォーキングなど、施設を利用しないスポーツ・レクリエーション活動も増えていること、また、機会の充実と施設の充実は別々に捉える必要があることから、施策の成果の捉え方を見直す必要があります。</p>	<p>【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】 【高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】 【地域スポーツの促進】</p> <p>スポーツ施設利用者数を増加させるため、引き続き指定管理者と連携し、効率的・効果的な事業展開を図るための事業の見直しなどスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の拡大や、各種スポーツ・レクリエーション情報及び施設の空き状況などわかりやすい情報提供に取り組めます。</p> <p>また、スポーツ・レクリエーション活動のニーズの把握と成果の捉え方の検討を行うとともに、年齢や体力、場所や道具等の制約を受けず、より気軽に楽しむことのできる種目の展開も検討します。</p>

【教育委員・事務点検アドバイザー】
 東京オリンピックに向けた取組については、スポーツだけでは足踏み状態に陥ると考えられるので、観光や学校教育など様々な取組の成果を集約しなくてはならない。
 ⇒オリンピックを契機と捉え、更なる推進を図る旨、次期計画の課題として整理いたします。

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
総合型地域スポーツクラブ等の情報提供	市民の皆さんに様々なスポーツ・レクリエーションの活動機会を提供する、「総合型地域スポーツクラブ」をはじめとしたスポーツ・レクリエーション団体に関する会員や活動内容等の情報を、市の広報媒体などを活用して積極的にPRするなど、市民の皆さんのスポーツ・レクリエーション活動参加への「きっかけづくり」に取り組みます。	<p>【青森市文化スポーツ振興公社助成事業（補助金）（スポーツ事業）】</p> <p>スポーツレクリエーション活動を促進させるため、既存スポーツ施設の有効活用を目的とした情報提供をはじめ、市民に様々な活動機会を提供する各種団体の情報提供、更には日常生活の中で気軽に取り組める運動の普及啓発などを目的とした情報誌を発行しました。</p> <p>■発行回数 H25：3回 H26：6回</p> <p>■配布場所 スポーツ施設、小中学校 外</p>	情報提供の効果についての把握する必要があります。	<p>【総合型地域スポーツクラブ等の情報提供】</p> <p>【ハイレベルな競技の観戦機会の提供】</p> <p>スポーツクラブ、スポーツ行事、プロバスケットボールチーム「青森ワッツ」などの情報を掲載したスポーツ・レクリエーション情報誌を発刊しました。</p>	<p>なし</p> <p>【審議会委員】 情報提供の効果についての把握が必要。 (今後の方向性との一貫性を持たせるため)</p> <p>⇒今後の方向性とは、施策展開の方向性として、個別事業の内容も包括したニュアンスとなっています。情報提供を行った効果の把握方法については、事業実施における課題として整理しており、施策の課題への記載は行っていません。</p>	<p>【総合型地域スポーツクラブ等の情報提供】</p> <p>【ハイレベルな競技の観戦機会の提供】</p> <p>「総合型地域スポーツクラブ」等の情報提供を継続し、市民の皆さんのスポーツ・レクリエーション活動参加への「きっかけづくり」に取り組みます。</p> <p>また、情報提供を行った効果の把握方法について検討するとともに、情報提供の媒体や内容など、より効果的な情報提供について適宜検討します。</p>
子どものスポーツ・レクリエーション活動の促進	幼児や小・中学生を対象とした各種スポーツ教室の開催をはじめ、単独校でスポーツ少年団が設置できない場合における複数の小学校区を対象としたスポーツ少年団の設置に向けた調整、学校を通じた地域の実情把握に基づく教員以外の地域のスポーツ指導者の発掘・育成、放課後子ども教室などの放課後活動におけるスポーツ推進委員の活用など、子どもの発達段階に応じて、身体を動かすことやスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりに取り組みます。	<p>【青森市文化スポーツ振興公社助成事業（補助金）（スポーツ事業）】</p> <p>・青森市スポーツ少年団本部活動事業 子どものスポーツ活動の推進を図るため、青森市スポーツ少年団の各種競技会に対し補助金を交付しました。</p> <p>■補助金交付件数 H25：4件 H26：4件</p> <p>・青森市カブ・パンビ卓球大会開催事業 スポーツ活動振興基金の運用事業の一環として、低年齢層から卓球の基本を正確に習得させ、技術の向上に資することを目的に実施しました。</p> <p>■大会参加者数 H25：99人 H26：130人</p> <p>【スポーツ推進委員設置事業】 「指導者の確保・活用」に同じ</p> <p>【スポーツ振興施設運営管理事業（スポーツ振興事業）】</p> <p>・青森市民体育祭（下欄に記載） ・小学生野球教室 野球の基本動作から試合の実践までを指導し、児童の健全な心身の発達のため、小学生野球教室を実施しました。</p> <p>■参加者数 H25：149人(3日間合計) H26：189人(4日間合計)</p>	なし	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ	<p>【子どものスポーツ・レクリエーション活動の促進】</p> <p>子どもの頃からスポーツに参加する機会を提供する仕組みとして、学校だけでなく、地域と連携して行う支援策（事業）も考えていく必要があります。</p>	<p>【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ</p> <p>【振興計画委員】 青森市のレクリエーション協会の活動状況はどうなっているのか。団体の活動との連携について、課題に記載した方がいい。</p> <p>⇒「スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供」において、「スポーツ施設の指定管理者をはじめとした関係団体と連携を図りながら、市民の皆さんのスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供に取り組みます。」と既に記載されており、現に取組んでいることです。他団体との連携自体については、必要なことと捉えておりますので、施策の内容として盛り込むべきものと事務局では考えています。</p>
高齢者のスポーツ・レクリエーション活動の促進	高齢者を対象とした各種スポーツ教室の開催をはじめ、高齢者団体に対する後援等を通じた各種スポーツ大会やイベントの開催促進、ウォーキングやニュースポーツなど日常生活の中で気軽に取り組める運動の普及啓発など、関係団体と連携しながら高齢者が気軽にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりに取り組みます。	<p>【スポーツ振興施設運営管理事業（スポーツ振興事業）】</p> <p>・青森市民体育祭 広くスポーツについて市民の理解と関心を深め、かつ、積極的にスポーツをする意欲の高揚のため、青森市民体育祭を実施しました。</p> <p>■参加者数 H25：7,278人(選手、役員、観客数含む) H26：7,128人(選手、役員、観客数含む)</p> <p>・マスターズ水泳記録会 記録会を通じて、参加者の泳力の向上と親睦を図るため、マスターズ水泳記録会を実施しました。</p> <p>■参加者数 H25：91人 H26：83人</p>	なし	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ	<p>【審議会委員】 スポーツに関心があり、元気で意欲のある高齢者をボランティアとして活用。</p> <p>※事業実施における意見として整理</p> <p>⇒元気で意欲のある高齢者については、スポーツ振興を図る上で、貴重な人的資源と認識しています。各種事業を実施する際に、その活用に積極的に活用することといたします。</p>
障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進	障害者を対象とした各種スポーツ教室の開催をはじめ、ソフト面でのサポート体制充実による障害者が利用しやすい施設環境づくり、障害者団体に対する後援等を通じた各種スポーツ大会やイベントの開催促進、障害者スポーツ指導員の積極的な活用方策の検討など、関係団体と連携しながら障害の有無にかかわらずスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりに取り組みます。	<p>【スポーツ振興施設運営管理事業（スポーツ振興事業）】</p> <p>・身体・知的障害者水泳教室 障害者の方が、水中で楽しく運動することにより、心身のリフレッシュと健康維持を図るため、身体・知的障害者水泳教室を実施しました。</p> <p>■参加者数 H25：362人(身体12回、知的22回合計) H26：331人(身体20回、知的30回合計)</p>	【スポーツ振興施設運営管理事業（スポーツ振興事業）】 ・ニーズについて調査する必要があります。	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ	<p>【障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進】</p> <p>障害者のスポーツ・レクリエーション活動については、規模等の関係から、他のスポーツ・レクリエーション活動に比べてニーズの把握が難しいため、積極的なニーズの把握と、機会の提供方法について更に検討する必要があります。</p>	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
指導者の確保・活用	スポーツ推進委員の周知・PR及び派遣システムの構築により、市民の皆さんの一層の活用促進を図るとともに、関係団体等に対する指導者研修会等の情報提供及び参加促進により、新たな指導者の発掘・育成やスポーツ推進委員を含めたスポーツ指導者全体の資質向上に引き続き取り組みます。	<p>【スポーツ推進委員設置事業】</p> <p>スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに指導、助言を行うスポーツ推進委員を設置し、スポーツの振興・普及を図りました。</p> <p>平成25年度からは、市民スポーツの推進を図るため、スポーツ推進委員を派遣しました。</p> <p>（設置人数：40名、指導種目：33種）</p> <p>■実働回数 H25 2,483回 H26 2,228回</p>	<p>【スポーツ推進委員設置事業】</p> <p>・新たな指導員の発掘・育成までは、十分に機能している状態ではありません。</p> <p>・地域からもスポーツ推進委員を発掘していく必要があります。</p>	<p>【指導者の確保・活用】</p> <p>スポーツ推進委員に対する各種研修会への参加を促進し、資質の向上を図りました。</p>	<p>【指導者の確保・活用】</p> <p>スポーツ推進委員の一人当たり年間平均活動回数は、平成25年度は前年度を上回ったものの、平成26年度は基準値をも下回り、目標の達成は困難な状況です。</p> <p>新たな指導員の発掘・育成までは、十分に機能している状態ではありません。</p> <p>指導者の活用に向けて、制度のPRが必要です。</p>	<p>【指導者の確保・活用】</p> <p>スポーツ推進委員の指導者としての資質向上を図るため、引き続き各種研修会への参加を呼びかけるとともに、市民のスポーツ推進委員の派遣システムの積極的な活用を促進していきます。</p> <p>地域からの新たな指導員の発掘・育成など、スポーツ指導者全体の資質向上のため、より効果的な方法を検討します。</p>
地域スポーツの促進	地域で開催する各種教室やイベントでの実技指導など、最も身近な町会等を活動単位にスポーツ推進委員等を活用することなどを通じて、地域の方々为主体的にスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境づくりに取り組みます。			【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ	【地域スポーツの促進】指導者の活用に向けて、制度のPRが必要です。	【スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の提供】と同じ
<p>【審議会委員】</p> <p>スポーツに対する意識の高揚と実践へのアプローチを図る方策として、各町内会、あるいは小中学校学区ごとに地区のスポーツを振興できる組織を設置し、地区対抗の大会等を開催。</p> <p>※事業展開における意見として整理</p> <p>⇒次期計画下の事業への提案として、参考とさせていただきます。</p>						
既存スポーツ施設の利便性の向上	老朽化が進んでいる市のスポーツ施設について、施設の指定管理者と連携した保守管理にこれまで以上に細心の注意を払うとともに、市の関係部局が毎年実施する定期建築物診断に基づき必要に応じて適切な修繕を行うなど、市民の皆さんが安心してスポーツ・レクリエーション活動に取り組める場としての機能維持に努めるほか、地域の身近な学校体育施設や市民センター体育館、市民ニーズが高いウォーキング・ジョギングに対応可能な施設など、スポーツ・レクリエーション活動に取り組める施設全般に関する空き情報や各施設で実施する各種教室・イベント情報を積極的に提供するなど、利便性の向上に取り組めます。	<p>【スポーツ施設機能整備事業（地域の元気臨時交付金）】</p> <p>市民体育館等の老朽化した施設機能等の整備を行いました。</p> <p>【森の広場改修事業】</p> <p>森の広場内調整池付近の水路の底が深く危険であるため、フェンスを設置しました。</p> <p>【沖館川遊水地照明灯整備事業】</p> <p>沖館川遊水地を利用する市民の利便性の向上、隣接する学校の児童生徒の安全の確保、地域の防犯対策として、照明灯の整備工事を実施しました。</p>	<p>【既存スポーツ施設の利便性の向上】</p> <p>地域の身近な学校体育施設や市民センター体育館、市民ニーズが高いウォーキング・ジョギングに対応可能な施設など、スポーツ・レクリエーション活動に取り組める施設の情報について、より周知を図る必要があります。</p>	<p>【既存スポーツ施設の利便性の向上】</p> <p>老朽化した施設機能等の整備、危険箇所へのフェンス設置など、既存施設の利便性向上を図りました。</p>	<p>【既存スポーツ施設の利便性の向上】</p> <p>スポーツ・レクリエーションに対する満足度は、基準値を下回る値で推移し、目標達成は困難な見込みとなっています。</p> <p>機会の充実と施設の充実は別々に捉える必要があることから、施策の成果の捉え方を見直す必要があります。</p>	<p>【既存スポーツ施設の利便性の向上】</p> <p>引き続き、施設の維持修繕等を適切に実施することで、施設の環境維持と充実を図り、安全確保に努めます。</p> <p>また、施設に関する各種情報の発信等、ソフト的な利便性の向上についても検討します。</p>
<p>【審議会委員】</p> <p>箱物でない施設の新設についても検討する必要がある。</p> <p>（既存施設の保守管理のみならず、市民ニーズが高い施設等（箱物でない）についても地域活性化施策を踏まえた検討が必要。）</p> <p>※事業実施における意見として整理</p> <p>⇒既存施設の形状を活かした、あるいは、通常使用が困難な積雪期の状況を活かすという意味での施設の新設についても、管理が必要となるほか、関係各所への申請、備品類の購入、場合によっては工事等も必要となる場合があります。</p> <p>一時的なものは、従前通り事業実施場所として事業レベルでの対応とし、大がかりなものは、市全体のスポーツ施設のあり方を検討する中で、併せて検討することとします。</p>						
ハイレベルな競技の観戦機会の提供	プロバスケットボールリーグの地元開催をはじめ、国民体育大会（夏季大会）誘致に向けた県への働きかけなど、高い競技水準の大会の開催誘致に取り組み、市民の皆さんが高い競技水準のスポーツを観戦できる機会の充実を図ります。	<p>【青森市文化スポーツ振興公社助成事業（補助金）（スポーツ事業）】</p> <p>スポーツレクリエーション活動を促進させるため、既存スポーツ施設の有効活用を目的とした情報提供をはじめ、市民に様々な活動機会を提供する各種団体の情報提供、更には日常生活の中で気軽に取り組める運動の普及啓発などを目的とした情報誌を発行しました。</p> <p>■発行回数 H25：3回 H26：6回</p> <p>■配布場所 スポーツ施設、小中学校 外</p>	【総合型地域スポーツクラブ等の情報提供】と同じ	【総合型地域スポーツクラブ等の情報提供】と同じ	なし	【総合型地域スポーツクラブ等の情報提供】と同じ
<p>【審議会委員】</p> <p>市民ニーズが高い（特に中高年）トレッキングやノルディック・ウォーキングコース、自転車専用道路の新設（箱物でない）についても地域活性化施策を踏まえた検討が必要。</p> <p>⇒「施策の課題」での整理と同じ</p> <p>【審議会委員】</p> <p>（運動施設の確保として）</p> <p>運動施設の確保のため、学校施設の使用条件の緩和、手続や許可の簡素化。</p> <p>⇒学校施設の管理の内容であり、スポーツ推進計画で謳うことは難しいと考えます。</p> <p>【教育委員・事務点検アドバイザー】</p> <p>スポーツ施設の空き状況のオンライン化が必要。</p> <p>↓</p> <p>【振興計画委員】</p> <p>随時、更新できるのであれば、非常に便利だが、施設は業務委託されており、少ない人員で運営されていることから不可能。</p> <p>⇒施策ではなく、事業レベルで検討して参ります。</p>						

1 施策名

基本方向2	学校体育活動の充実
-------	-----------

【主な取組1】 指導体制の充実

【主な取組2】 安全・安心の確保

2 現状と課題（計画の抜粋）

市では、教育活動の充実を図る取り組みの一環として、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもを育成するため、自ら進んで運動に親しみ、体力の向上やより良い生活を営むための健康・安全指導を充実させるため、学校体育活動において、各種研修会をはじめとした教員の指導力や資質の向上を図る取り組みを進めています。
また、平成24年度から中学校において必修化された武道や、小・中学校の部活動等において、安全かつ円滑に活動できるよう、関係団体等と連携した実技指導における外部指導者の活用にも取り組んでいます。

3 施策の概要（計画の抜粋）

教員の資質向上や関係団体等との連携により、学校体育活動における指導体制の充実に取り組むとともに、安全・安心に学校体育活動に取り組める環境づくりを進めます。

4 基本施策の目標とする指標と取組状況

指標名	基準値 (H23)	目標値 (H27)	実績値				現時点での達成率
			H24	H25	H26	H27	
①体力テストの体力合計点（小学5年生）	男 55.2 点 女 56.0 点	男 55.45 点 女 56.25 点	男53.89 点 女55.87 点	男 53.79 点 女 55.13 点	52.15 点 54.63 点	*** 点 *** 点	97.0 % 98.0 %
	【指標の説明】8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点						
②体力テストの体力合計点（中学2年生）	男 42.2 点 女 44.9 点	男 42.45 点 女 46.90 点	男41.46 点 女49.15 点	男 42.32 点 女 46.65 点	41.79 点 47.25 点	*** 点 *** 点	99.7 % 99.5 %
	【指標の説明】8種目の体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した体力テスト合計得点						

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
指導体制の充実	教員の専門性を高めるための研修や、自校の課題解決のための組織的な校内研修の日常化などを通じて、教員の指導力や資質の向上を図るとともに、体育・保健体育の授業以外に、子どもたちが運動遊びやスポーツをしたり、積極的に体を動かす習慣を身に付けたりするための取り組みの充実を図ります。また、スポーツ団体等と連携した、部活動を含む学校体育活動全般における外部指導者の活用を進め、学校体育活動の活性化を図ります。	【学校訪問教育指導事業】 【教職員研修事業】 【実践指導事例集作成事業】 小学校の体育科や中学校の保健体育科の教科指導の充実のため、研修講座や学校訪問等を通して、指導方法の工夫や改善を図り、教員の指導力の向上に取り組んでいます。 各校では、体力テストの結果に基づき、自校の運動実践の場の充実、環境づくりの推進に取り組んでいます。	なし	【指導体制の充実】 小・中学校において学校体育や保健体育の研修講座を開催するなど、指導体制の充実を図ったことなどから、中学校2年生の体力合計点が男女とも基準値よりも高くなっています。	【指導体制の充実】 小学校5年生の男女、中学校2年生の男子の体力合計点が低くなっていることから、結果を分析し、対策に取り組む必要があります。 学校での体育活動を自由時間にもしたくなるような運動意欲を高める工夫が求められています。 【審議会委員】 学区内で指導できる保護者やOBの社会人など外部指導者の活用。 ※事業展開への意見として整理 ⇒既に、保護者等の地域住民による指導は行われています。 現計画においても外部指導者の活用は願っているため、更なる活用について検討して参ります。	【指導体制の充実】 研修講座や学校訪問の実施及び実践指導事例集の作成を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、運動意欲を高める授業づくりのポイントについて指導・助言することで、教員の指導力向上に努めるとともに、児童生徒の体力向上につながる様々な取組を紹介していきます。 小中連携で行われている、中学校保健体育科教員による小学校での出前授業の取組など、全小・中学校を対象に特色ある事例の周知に努めます。 教員の指導力向上に努めるとともに、ボールや縄、棒などの用具を用いて行う運動や鬼ごっこなど、児童生徒が楽しみながら体を動かせる運動や身体活動を伴う遊びを数多く紹介するとともに、保護者と地域及び学校が連携した取組事例を紹介していきます。 各学校に対して、体育活動中の事故防止のための校内研修の開催を働きかけるとともに、児童生徒の実態や教員数等を踏まえて、各学校が作成している「危険等発生時対処要領」の見直し・改善を図るよう働きかけます。
安全・安心の確保	スポーツドクターとの連携による、スポーツ医・科学を活用したスポーツ事故やスポーツ障害防止等に関する知識の普及啓発により、安全・安心に学校体育活動に取り組める環境づくりを進めます。	【スポーツ医科学講座開催事業】 スポーツ事故やスポーツ傷害の防止等を目的に、学校教員をはじめとした小・中学生のスポーツ指導者等を対象に、スポーツ医科学講座を開催しました。 (参加者数：H25年度 40人 H26年度 36人) H27年度からは、アスリート等を講師に招き、実技を交えた講座を実施します。 【実践指導事例集作成事業】指導課 【学校教育指導方針推進事業】指導課 【学校訪問教育指導事業】指導課 【教職員研修事業】指導課	【スポーツ医科学講座開催事業】 学校教育とは離れませんが、シニア世代の需要についても対応を検討する必要があります。 【審議会委員】 体調管理のための食生活についての必要性がある。 ※事業展開への意見として整理 ⇒体調管理のための食生活については、スポーツ障害を防止する上で、広く考えれば関係する内容と考えます。事業展開を図る上で検討して参ります。	【安全・安心の確保】 各学校において、体育活動中の事故防止のための校内研修を実施するとともに、万が一、事故が発生した際の対応についてまとめた「危険等発生時対処要領」を作成したほか、学校訪問時に「危険等発生時対処要領」を確認し、より実効性のあるものにするための指導・助言をし、安全・安心の確保が図られました。	なし 【審議会委員】 管理栄養士を追加。 ※事業展開への意見として整理 ⇒体調管理のための食生活については、スポーツ障害を防止する上で、広く考えれば関係する内容と考えます。事業展開を図る上で検討して参ります。	【安全・安心の確保】 安全・安心の確保を図るため、引き続き小・中学校の教員や各種競技団体を対象にしたスポーツ医科学セミナーを開催し、医師や大学教員の講義を通じて、スポーツ事故やスポーツ傷害防止等に関する知識の普及啓発に取り組めます。

1 施策名

基本方向3	ウィンタースポーツの推進
-------	--------------

- 【主な取組1】 「カーリングの街・青森」の推進
- 【主な取組2】 その他ウィンタースポーツの促進

2 現状と課題（計画の抜粋）

近年では他の自治体で通年利用が可能なカーリング場が整備された一方、本市では未だ10月から4月までの利用環境となっており、また、全国的な競技水準も向上するなど、本市のカーリング環境は相対的に厳しさを増しており、「カーリングの街・青森」の実現に向けた取り組みを強化していく必要があります。
また、ここ数年、市のウィンタースポーツ施設の利用者数やウィンタースポーツイベントの参加者数が減少しており、だれでも気軽にウィンタースポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいく必要があります。

3 施策の概要（計画の抜粋）

多様な施設環境や多雪寒冷である本市の気候特性を活かし、全国的にも注目を集めているカーリングをはじめ、スキー、スノーボード、スケートなど、ウィンタースポーツ全般に気軽に楽しめる機会の充実及び競技水準の向上に取り組めます。

4 基本施策の目標とする指標と取組状況

指標名	基準値 (H23)	目標値 (H27)	実績値				現時点での達成率
			H24	H25	H26	H27	
①ウィンタースポーツ施設利用者数	106,449 人	116,467 人	103,503 人	107,313 人	114,206 人	*** 人	98.1 %
【指標の説明】 本市所有のウィンタースポーツ施設の年間利用者数							
②ウィンタースポーツに対する満足度	20.8 %	26.8 %	22.0 %	22.2 %	21.7 %	*** %	81.0 %
【指標の説明】 ウィンタースポーツに親しむことができる機会や環境に対する満足度（市民意識調査）							
③ウィンタースポーツイベント参加者数	777 人	937 人	739 人	735 人	588 人	*** 人	62.8 %
【指標の説明】 本市が関わる各種ウィンタースポーツイベントへの参加者数							

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
「カーリングの街・青森」の推進	全国高等学校カーリング選手権大会や市内の小・中学生カーリングチャレンジカップの開催により引き続き若手選手の競技力向上及びカーリング人口の裾野拡大を図ります。また、全国規模の大会誘致やスポーツ会館カーリング場の利用期間拡大に向けた検討、更には競技団体との連携による国際競技大会で活躍できる選手及びチームの輩出を目指した競技水準の向上など、様々な角度からカーリング振興に努め、「カーリングの街・青森」が全国的に認知され、観光、教育、地域活性化などまちづくりにおいてカーリングが積極的に活用されるよう取り組みます。	<p>【全国高等学校カーリング選手権大会開催事業】</p> <p>カーリングの振興を図るため、全国高等学校カーリング選手権大会を開催しました。</p> <p>■開催実績</p> <p>H25 男子の部(5チーム/22名) 北海道選抜、北海道南富良野高等学校、青森選抜、長野選抜、青森・長野合同 女子の部(5チーム/21名) 北海道選抜、北見藤女子高等学校、青森明の星高等学校、関東中部選抜、青森選抜</p> <p>H26 男子の部(5チーム/22名) 北海道選抜A、北海道選抜B、青森選抜、長野県選抜、青森高等学校 女子の部(5チーム/25名) 常呂高等学校、北見藤女子高等学校、青森選抜、関東中部選抜、青森明の星高等学校</p>	全国各ブロックから参加チームを確保することが厳しくなりつつある状況となっているほか、一般財団法人地域活性化センターの助成金が第10回で終了する予定となっています。	<p>【「カーリングの街・青森」の推進】</p> <p>【その他ウィンタースポーツの促進】</p> <p>日本ジュニアカーリング選手権大会、全国高等学校カーリング選手権大会などを開催し、若手選手の競技水準の向上及びカーリング人口の裾野拡大を図ったほか、小学校へのスキースロープ設置助成事業の実施のほか、モヤヒルズでのスキーの日の小学生を対象にしたスキーの無料講習会の開催やスノーボーダーを対象としたナイターの開催等により、市民が気軽にウィンタースポーツに親しむことができる機会の充実を図りました。</p> <p>その結果、平成25年度及び平成26年度におけるウィンタースポーツ施設利用者数は前年度を上回り、目標達成が見込まれます。</p>	<p>【「カーリングの街・青森」の推進】</p> <p>本市のカーリング環境は、他都市での競技力の向上や施設の通年利用などにより、全国的に見て優位な状況ではなくなりました。</p> <p>【審議会委員】</p> <p>行政、民間企業、学校、競技団体等が一体となって取り組む施策を検討する必要があります。 (地域活性化施策と連携)</p> <p>※事業展開の意見として整理</p> <p>⇒現行施策の中でも大会の誘致や競技団体との連携、様々な角度からのカーリング振興について駆っており、今後の事業展開で検討して参ります。</p>	<p>【「カーリングの街・青森」の推進】</p> <p>「青森市スポーツ推進計画」に基づき、「小・中カーリング・チャレンジカップ」を継続して開催するとともに、青森県カーリング協会と連携しながら、全国大会等の誘致に努めるとともに、「カーリングの街・青森」のPRに引き続き取り組んでいきます。</p> <p>また、カーリングが観光や地域活性化に活用されるような事業についても検討します。</p>
				<p>【審議会委員】</p> <p>「オール青森市」のみならず、「オール青森県」として総合的に検討すべき。</p> <p>※事業展開への意見として整理</p> <p>⇒現行施策の中でも大会の誘致や競技団体との連携、様々な角度からのカーリング振興については、今後の事業展開で検討して参ります。</p>		
				<p>【審議会委員】</p> <p>リンクのメンテナンス期間を短縮。 (夏合宿等が可能になり他県からのチームが来ることでスポーツ・ツーリズムにも貢献)</p> <p>※事業展開の意見として整理</p> <p>⇒改修費用等の課題もあるため、事業展開をする上で検討を重ねて参ります。</p>		
				<p>チーム青森の復活。 (選手の励みと将来のコーチ輩出への期待、地元選手育成への貢献)</p> <p>※事業展開の意見として整理</p> <p>⇒カーリング協会との協議を検討して参ります。</p>		

【審議会委員】
北国の若人が主役となる冬季オリンピックを盛り上げていく意味でも、スポーツ全般の施策の中で、冬季スポーツ振興について積極的に差別化し、目玉とすべき。
「今後の方向性」については、過去の水準に回復し、更に発展していくべき具体的な対応等を記述すべき。

※事業展開への意見として整理

⇒現計画において、ウィンタースポーツは別建てとしており、計画のつくりとして、他のスポーツとは差別化を図っています。更なる発展のための具体的な対応策は事業展開の中で検討して参ります。

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
<p>その他ウィンタースポーツの促進</p>	<p>冬期間における運動不足を解消し、活発にスポーツ活動に取り組んでいただけよう、既存のウィンタースポーツ施設の適正な保守管理及び積極的な情報提供に努めるとともに、「歩くスキーの集い」をはじめとした各種教室や気軽に参加できるイベントの開催、小学校の校庭を活用したスキースロープの設置助成、更にはウィンタースポーツ活動に取り組む団体に対する後援等を通じた各種教室やイベントの開催促進など、ウィンタースポーツに取り組みややすい環境づくりに取り組みます。</p>	<p>【スキースロープ設置助成事業】 校庭にスキースロープを設置する小学校に、設置費用の一部（20,000円）を助成しました。 ■助成実績 H25：25校 H26：27校</p> <p>【青森市文化スポーツ振興公社助成事業（補助金）（スポーツ事業）】 公社が実施する各種スポーツ事業の事業費等を助成しました。 ・生涯スポーツ・レクリエーション普及事業 冬期間の運動不足を解消し、体力向上を図るため「歩くスキーの集い」を開催しました。 ・氷上スポーツ・レクリエーション祭開催事業 冬期間の運動不足を解消し、ウィンタースポーツの振興を図るため、小学生を対象に氷上で行う各種レクリエーションやゲームに親しむ機会を提供しました。</p>	<p>なし</p> <p>【審議会委員】 「歩くスキーの集い」 スキー用具が古くなり、破損が多い。補充が必要。 ※事業実施における意見として整理 ⇒必要性を確認のうえ、対応を検討いたします。</p>	<p>【審議会委員】 冬季スポーツ競技を愛好する市民の数が低いとされているが、なぜ少ないのか、他市との比較した競技力はどうなのか、要因を調査して対策を講ずる必要がある。 ※指標に関する意見として整理 ⇒現在の指標では、実態を捉えきれていないので、指標の設定について検討いたします。</p>	<p>【その他ウィンタースポーツの促進】 ウィンタースポーツイベントの参加者数については、目標達成が困難な見込みです。また、ウィンタースポーツに対する満足度については、基準値を上回っているものの、目標の達成は困難な見込みとなっています。 気軽にウィンタースポーツに親しめる環境づくりについて、さらに検討する必要があります。また、市外施設の利用などの場合を考慮し、成果の測定方法について検討する必要があります。</p>	<p>【その他ウィンタースポーツの促進】 スキースロープ設置助成を継続するとともに、ウィンタースポーツイベント参加者数の向上を図るため、ウィンタースポーツ事業の更なるPRに努めていきます。 また、ウィンタースポーツに対する満足度が低いことから、ウィンタースポーツに親しめる環境づくりについてさらに検討します。</p>
<p>【審議会委員】 だれでも気軽にできる歩くスキーやポールを使用したウォーキングコースの設定(除雪等)について検討。 (冬場の運動不足解消の為に、近年、特に中高年に人気が高く、施設を要しない) ※事業展開への意見として整理 ⇒今後の事業展開で検討して参ります。</p> <p>【審議会委員】 他に例のない積雪ニュースポーツの募集やコンテストを実施して、市民の愛好スポーツを誕生させて実践する。 【本多委員】 新たな冬季競技を検討すべき。 ※事業展開の意見として整理 ⇒今後の事業展開で検討して参ります。</p>						

1 施策名

基本方向4	競技水準の向上
【主な取組1】	ジュニア層の育成強化
【主な取組2】	各種競技会への参加支援
【主な取組3】	競技団体との連携促進
【主な取組4】	優秀な成績を収めた選手及び指導者に対する顕彰

2 現状と課題（計画の抜粋）

ジュニア層の育成強化が、競技力の向上に重要な役割を果たすことから、これまでの小・中学生を対象としたスポーツ大会の開催支援などに加え、競技団体とも連携しながら優秀な選手及び指導者を発掘・育成するための対策に取り組む必要があります。
 高い競技レベルを実感することは、競技意欲の向上に大いに資することから、本市を代表して全国大会などに出場する選手に対する参加促進に継続して取り組む必要があります。

3 施策の概要（計画の抜粋）

市民の皆さんのスポーツへの関心・意欲を高めるとともに、意欲ある優秀な選手や指導者の発掘・育成に努めるなど、競技団体とも連携しながら競技水準の向上に取り組めます。

4 基本施策の目標とする指標と取組状況

指標名	基準値 (H23)	目標値 (H27)	実績値				現時点での達成率
			H24	H25	H26	H27	
①スポーツ賞及びスポーツ奨励賞受賞者数	— 人	195 人	141 人	151 人	119 人	*** 人	61.0 %
【指標の説明】本市の表彰制度である「スポーツ賞」及び「スポーツ奨励賞」の受賞者数							
②国民体育大会に出場した市民の人数	103 人	120 人	83 人	102 人	88 人	*** 人	73.3 %
【指標の説明】国民体育大会に出場した市民の人数							
③中学生の東北・全国大会派遣者数	240 人	254 人	227 人	322 人	189 人	*** 人	74.4 %
【指標の説明】青森県中学生体育大会を通じて東北・全国大会に出場した中学生の人数							

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
ジュニア層の育成強化	これまでの小・中学生を対象としたスポーツ大会の開催支援などに加え、トップレベルの選手又は指導者による講習会や実技指導などの開催や、競技団体との連携のもと、各種大会等において優秀な選手を発掘し、適切な指導により育成できる体制づくりについて検討を行うなど、ジュニア層の強化に取り組めます。	【スポーツ推進委員設置事業】 スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに指導、助言を行うスポーツ推進委員を設置し、スポーツの振興・普及を図りました。 平成25年度からは、市民スポーツの推進を図るため、スポーツ推進委員を派遣しました。 （設置人数：40名、指導種目：33種） ■実働回数 H25 2,483回 H26 2,228回 【審議会委員】 「スポーツ指導者育成支援事業」を記載すべきではないか。 ⇒事業として実施はしていますが、主な事業としてはより人数が多く、活動回数も多いスポーツ推進委員設置事業を掲載しました。	【スポーツ推進委員設置事業】 ・指導者数が不足しています。特にトップレベルの指導については、対応可能な講師の確保が難しく、十分な体制づくりが困難な状況です。 ・優秀な選手の発掘と適切な指導・育成までは、十分に機能している状態ではありません。	【ジュニア層の育成強化】 【各種競技会への参加支援】 東北・全国のレベルの高い大会へ出場する中学校及び高等学校の生徒に対する支援に取り組んだ結果、中学生の東北・全国大会派遣者数が平成25年度においては、前年度及び目標値を大幅に上回りました。 本市を代表して各種競技会へ出場する選手等に対する支援に取り組んだ結果、平成25年度において、国民体育大会に出場した市民の人数は前年度を上回りました。	【ジュニア層の育成強化】 中学生の東北・全国大会派遣者数が、平成26年度においては前年度を大きく下回りました。 ジュニア層の育成強化を図るためには、より効果的な指導体制の構築が必要となります。 【審議会委員】 2025年の国体勝致を視野に、今後競技団体等が進める競技力向上対策に対し積極的に協力して選手の育成強化に努める。 ※事業展開への意見として整理 ⇒今後の事業展開で検討して参ります。	【ジュニア層の育成強化】 ジュニア層の育成強化を図るため、引き続きトップレベルの選手又は指導者による講習会や実技指導などの開催や、競技団体との連携のもと、各種大会等において優秀な選手を発掘し、適切な指導により育成できる体制づくり
各種競技会への参加支援	高等学校全国大会や青森県民体育大会、国民体育大会など本市を代表して各種競技会へ出場する選手等に対する支援に、引き続き取り組めます。	【中学校体育大会選手派遣事業（補助金）】 東北・全国中学校体育大会へ選手を派遣する青森市中学校体育連盟に対して補助金を交付しました。 ■交付団体数 H25：1団体 H26：1団体 【高等学校全国大会選手派遣事業（補助金）】 全国高等学校野球選手権大会等に出場する学校・運動部に対して、補助金を交付しました。 ■交付団体数 H25：3団体 H26：3団体	なし		【各種競技会への参加支援】 国民体育大会に出場した市民の人数は、平成26年度においては前年度を下回りました。 競技水準の向上のため、より効果的な支援方法も検討する必要があります。	【各種競技会への参加支援】 各種競技会への参加支援及び競技団体との連携を促進するため、引き続き一般財団法人青森市体育協会への助成や、小学校体育デー及び中学校体育大会の開催費助成、中学生・高校生への東北・全国大会派遣費補助などを継続していきます。 また、競技成績上位者（校）への支援のあり方の検討など、より効果的な支援方法を検討します。

施策の内容	施策の内容	施策を構成する主な事業の実施状況	事業を実施する上での課題	施策の成果	施策の課題	今後の方向性
<p>競技団体との連携促進</p>	<p>競技力の向上に主体的な役割を担う財団法人青森市体育協会加盟団体に対し、競技力強化及び協会の運営に必要な支援を行い、当該団体の活動促進に引き続き取り組むとともに、高いレベルの指導者研修会等の積極的な情報提供等を通じて研修会等への参加を促進させ、高度な専門技術を有する意欲ある優秀な指導者の発掘・育成に取り組みます。</p>	<p>【青森市体育・スポーツ競技団体育成強化事業（補助金）】 （財）青森市体育協会が行う市町村対抗青森県民体育大会選手権事業等に対して補助金を交付しました。 ■交付団体数 H25：1団体 H26：1団体 【青森県スポーツ推進委員協議会事業（負担金）】 青森県スポーツ推進員協議会へ参加し、県内スポーツ推進委員間における連携、意見交換を通じたスポーツ推進員の資質向上を図りました。</p>	<p>なし</p>	<p>【競技団体との連携促進】【優秀な成績を収めた選手及び指導者に対する顕彰】 競技力の向上に主体的な役割を担う一般財団法人青森市体育協会加盟団体の活動の促進を図るとともに、スポーツ推進委員を県の協議会へ参加させることで、高度な専門技術を有する意欲ある優秀な指導者の発掘・育成に取り組みました。</p>	<p>【競技団体との連携促進】【優秀な成績を収めた選手及び指導者に対する顕彰】 スポーツ賞及びスポーツ奨励賞受賞件数については、平成25年度から指導者賞が追加されたものの、受賞者数は増加せず、目標の達成は困難な見込みです。 高度な専門技術を有する意欲ある優秀な指導者の発掘・育成について、より効果的な方法を検討する必要があります。</p>	<p>【競技団体との連携促進】 各種競技会への参加支援及び競技団体との連携を促進するため、引き続き一般財団法人青森市体育協会への助成や、小学校体育デー及び中学校体育大会の開催費助成、中学生・高校生への東北・全国大会派遣費補助などを継続していきます。 競技団体と連携した優秀な指導者の発掘・育成について、より効果的な方法を検討します。</p>
<p>優秀な成績を収めた選手及び指導者に対する顕彰</p>	<p>これまでの東北大会以上のレベルの大会で優秀な成績を収めた選手、団体を対象とした顕彰に加え、全国大会以上の大会で優秀な成績を収めた選手の指導者を対象とした新たな顕彰制度などを通じて、競技意欲や指導意欲の更なる向上を図ります。</p>	<p>【スポーツ賞表彰事業】 スポーツ部門における大会等において優秀な成績を収めた個人又は団体及び指導者を表彰しました。 ①スポーツ賞：国際規模の大会において優秀な成績を収めた者又はこれに準ずる者 ②スポーツ奨励賞：全国規模の大会において優勝・準優勝又は第3位の成績を収めた者、東北規模の大会において優勝の成績を収めた者 ③スポーツ指導者賞：国際規模の大会において優秀な成績を収めた者又はこれに準じる者、及び全国大会以上の大会において優勝の成績を収めた者の指導者 ■表彰者数 H25：151名（スポーツ賞10、奨励賞125、スポーツ指導者賞16） H26：119名（スポーツ賞13、奨励賞98、スポーツ指導者賞8）</p>	<p>なし</p>			<p>競技意欲を高めるためのスポーツ賞、スポーツ奨励賞、指導意欲を高めるためのスポーツ指導者賞は継続して実施します。</p>

	審議会委員	対応
全体	北海道新幹線が開業することから、北東北と道南地域がスポーツの面からも連携して取組む施策が必要。	広域的な内容であり、県等が主体の交流事業の中で検討すべきものと考えます。